

風土記の丘の花だより¹⁵⁹

今、そしてこれから見られる植物(2022年11月5日)

万葉植物園や安藤塚のカエデが少しずつ色づいてきました。イチヨウもケヤキも秋の色になってきました。早いもので、もう霜月、11月です。これからは紹介する花を探すのに苦労する季節です。



谷村家住宅の西斜面のシャシャンボが色づいてきました。おかしな名前ですがツツジ科の木です。図鑑には「ブルーベリーと同じ仲間で、甘酸っぱくておいしい」みたいなことを書いていますが、少なくとも私は、酸っぱいだけでおいしいとは思いません。たまたま食べた実が未熟だったのかもしれませんが。試食されるときは、十分に熟したものを選んでください。



万葉植物園入り口などでリュウノウギクの花がきれいです。同じキク科でもコウヤボウキやオケラの花などとは違って、ちゃんと花びらがある舌状花(ぜつじょうか)が目立つので、誰が見ても「きく」って感じですね。花びら一枚が一つの花で、それがたくさん集まって一つの白い花のように見えているのです。真ん中の黄色い部分は花びらのない筒状花の集まりです。



よく似たムラサキシキブ(左)とヤブムラサキ(右)が共にきれいな紫色の実を付けています。かつてはクマツヅラ科でしたが、最近はシソ科に分類されています。どこがシソに似ているのでしょうか。それはさておき、この2つ、よく見ると違いが分かります。実の大きさ、艶のちがい、実を包む皮の有無などです。また、葉を触るとすぐに区別できます。ヤブの方が毛深くてフワフワしています。



すでに気づきの方も多いかも知れませんが、前山A58号墳の近くにコシロノセンダングサが前から咲いています。よく見かけるコセンダングサの花には花びらがありませんが、これには白い花びらがちゃんと付いています。種はひつつき虫です。 松下